

平成27年4月17日

プロジェクト報告書

団体名 自立援助ホーム つばさ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

自立援助ホーム つばさの運営

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

自立援助ホームとは、様々な理由により社会にできる事と余儀なくされた、又は家庭の事情により一人で生活していくわけにはいかない義務教育終了後15歳から20歳までの子どもたちの社会性の育成、生活技術の習得を助け、退所後は相談役や実家としての役割を担うホームです。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

本ホームは、3LDKのマンション4ユニットを賃貸で使用しています。事業は措置費で運営されており基本は定員外いで、本ホームの定員は6名ですが、入所者の事情により定員を要する事が少くありません。

その結果暫定定員となり措置費が減額されることもあります。対象者は、家庭や児童養護施設、少年院から幅広く、知的障害を持つ児童、保護観察や外国籍の児童が支援内容は就労支援を始め自立準備やアフターケアなど多岐に渡ります。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

本ホームは24時間体制の支援体制が必要ですが、国の定める人員配置は2.5人です。職員の仕事の負担が大きいため現在は3人(職員2名、パート2名)で運営しています。人件費や必要経費は節約することが難しいので、寄付の品を活用したりして、食費などは節約しています。また、児童にも光熱費を節約する様に指導しています。今後の自立生活にも生かされる事で退所者の中には、本ホームで電気などをまめに消す習慣がついて良かったと言う児童もいます。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今年度は定員6名の入所でしたので、措置費は満額支給されました。しかし、秋から職員の入替めりがあり、引き継ぎの急、2ヵ月間は職員配置4名で運営していた為、人件費が多くかかりました。また、入所児童も大きな問題をかかえているケースが多かった為、厚い人員配置が必要でした。更に電話機の故障や階下住人のクレームによるリホームなど事務費の出費も重なりました。人件費にかかる資金援助がないので、この度の助成金は大変助かりました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

